

郡上農林事務所の普及活動状況 令和5年12月31日現在

今月の重点活動

■水稲 「おいしい米づくり」に向けて個別面談・地区講習会の開催

「第9回郡上おいしい米コンテスト」が11月18日に終了したが、すでに第10回に向けた活動が始まっている。

12月16日に米コンテスト参加者の内の希望者8名に対し「おいしい米づくり」に向けた個別面談を行い、栽培履歴や食味・穀粒判別機の結果から、次年度に向けた改善点を指導した。

また、12月13日には、「めいほう米づくり連絡協議会」の講習会が「おいしいお米づくり」をテーマに開催され、コンテストの分析結果、病虫害対策（いもち病、ごま葉枯病、ヒレタゴボウ）、土壌分析の活用やケイ酸・鉄の施用等、おいしい米づくりのポイントを説明した。

さらに、1月には、「ブランド化研究会」で「米コンテスト」最優秀賞受賞者の話を聞く研修会が計画されており、今後も、農業普及課では、郡上産米ブランド化に向けた取り組みを支援していく。



【個別面談・講習会の様子】

郡上の農業・農村を支える人材育成

■新規就農 農林水産FEST大阪で就農相談を開催

農業普及課は郡上地域での就農希望者を募集するため、12月17日に大阪府で開催された就農相談会「農林水産FEST」に中濃地域就農支援協議会の一員として参加した。当日は大阪府と兵庫県の20代独身から50代の夫婦まで、幅広い4名からの相談があった。情報収集を始めたばかりの相談者に対しては、具体的な就農イメージをもって着座した訳ではないことから、まずは郡上市に遊びに来てもらい、地域の魅力を知ったうえで就農を検討してみてはという流れで説明を行った。

相談会に参加した方々には今後も協議会から情報を提供し、現地訪問の希望があれば農業普及課も対応していく。



【説明するJA担当者】

郡上農畜水産物のブランド展開

■夏だいこん 「ひるがの高原だいこん生産出荷組合」が通常総会を開催

令和5年度「ひるがの高原だいこん生産出荷組合」通常総会が12月5日に開催された。令和5年産の出荷量は前年より増えたものの、梅雨明け以降の高温干ばつや8月中旬以降の品質低下等が影響し、販売金額は前年比約90%という結果となった。令和5年は共同洗い場が本格稼働し、また、新たに2法人が設立された。今後、作業の効率化が進められるとともに、担い手による農地の維持管理が進められていくと思われる。

農業普及課では、関係機関とともに産地の維持発展に向け、法人化支援を継続していく。

■夏秋トマト 「夏秋トマト部会」が振り返り反省会・販売実績検討会を開催

郡上園芸特産振興会夏秋トマト部会が12月19日に、振り返り反省会・販売実績検討会を開催し、今年度のトマトの生産・販売実績の検討と出荷成績優秀者への表彰を行った。

今年は非常に暑い夏で生産には苦労が絶えない年であったが、生産量は昨年を上回り、販売金額も昨年より20%増加した。農業普及課からは、次年度に向け換気や遮光資材活用による夏の暑さ対策や、問題となっている「褐色輪紋病」対策のポイント等について説明を行った。

また、今年度の成績優秀者4名の表彰が行われ、生産者の栽培意識向上が図られた。

農業普及課では、持続的な夏秋トマト産地づくりを目指して今後も支援を続けていく。



【表彰を受ける部会員】

■夏秋いちご 「ひるがの高原いちご組合」出荷実績検討会を開催

高鷲町で令和5年度「ひるがの高原いちご組合」出荷実績検討会が12月9日に開催された。

生産者、市場担当者、JA担当者等が集まり、今年の出荷実績の振り返りを行った。今年は7月上旬から11月下旬まで出荷が行われ、夏期の高温などの影響で、昨年より出荷量はやや少なくなったが、単価が高く販売額は約7%多くなった。農業普及課からは、今年度の天候、病虫害防除、品種試験について次年度の対応も含めて説明した。また、品種試験や病虫害発生状況調査は、来年度も継続することを報告した。

次年度は新規に生産を始める方もいることから、農業普及課では、夏秋いちごの産地維持・発展に向け、今後とも支援を積極的に進めていく。



【検討会の様子】